

初のミュージカルで熱演する小山内ゼミ生



### 文・小山内ゼミ 『4/1 STORIES』

文学部日本文学文化学科の小山内伸ゼミ(ゼミ生36人)は6月24日、生田キャンパスのラーニングシアター201で初めて創作ミュージカル『4/1 STORIES』を上演した。

ゼミ生の内田里奈さん(4年次)が昨年度の懸賞論文・文芸作品コンクール(学生部主催)で植光彦文学賞を受賞した戯曲をミュージカル化したもので、構成、演出、出演すべてを小山内ゼミ

## 初の創作ミュージカル上演

が担った。「明日はエイプリル・フル」など、劇中歌8曲のうち7曲は小山内教授が作曲した。女子4人がエイプリル・フルにまつわるたわいのない「ガールズトーク」を繰り広げている。その話の中にはそれぞれの重大な秘密が隠されていた。4人が過去どう向き合っていくかを問うミステリー仕立ての物語。会場には演劇評論家も訪れ、学生たちの若々しい演技や歌を楽しんで

は90分という長丁場で、3回の全体練習をこなして本格上演に臨んだ。演出、主演と劇中歌の作詞も担当したゼミ長の矢内有紗さん(3年次)は舞台を終えて、「一つの舞台を作り上げることがいかに大変なことか分かった。限られた条件の学内上演だが、ゼミ生全員が力を合わせてやり遂げることができた」と、笑顔いっぱいにして話した。



小山内教授を囲んで

### 経済・飯沼ゼミ生

## ラオス料理に挑戦



青パイアの調理の手本を見せるスターンさん

経済学部国際経済学科の飯沼健子ゼミ生ら30人が6月13日、国際交流会館の食堂でラオス料理にチャレンジし、食事を開いた。指導はラオス国立大学文学部日本語学科からの交換留学生ブンヤラシー・スターンさん。

「ぜひ教えてほしい」と希望し実現した。ラオス料理は、もち米や肉、魚、野菜をベース

に香草をふんだんに使って調理する。この日のメニューは、青パイアのサラダ(タムマークフン)▽鶏ひき肉の香り炒め(ラップ)▽タケノコスープ▽果物とココナツのデザートなど。

「ラオス料理は家庭的な家庭料理で、ゼミ生たちが慣れない手つきながらラオス製の陶の臼と棒状の杵を使うなどして料理に挑戦した。スターン

さん(3年次)は「ラオス料理を食べたことはあるが、今日の料理の方が断然おいしかった。普段、ゼミの活動は資料の読解や発表が主だが、料理をすることで交流が深まった」と話した。

地震や火災発生に備え、防災訓練や応急救助を体験する「第7回BO SAIフェア」が6月28日、神田キャンパスで開催された。

学生、教職員や地域の方々と151人が参加。神田消防署員の指導を受けながら、震度7の揺れや煙が充満した状態などを疑似体験し、消火活動、AED取り扱い、物干しざおと毛布を利用した担架作りなど、非常時に適切に行動する方法を学んだ。担架作りの参加者は「身の回りのものが役立つことを知った。頭に入れておきたい」と話していた。

### 指導は交換留学生

に香草をふんだんに使って調理する。この日のメニューは、青パイアのサラダ(タムマークフン)▽鶏ひき肉の香り炒め(ラップ)▽タケノコスープ▽果物とココナツのデザートなど。

### 舌つづみ打ち 歓談

「ラオス料理は家庭的な家庭料理で、ゼミ生たちが慣れない手つきながらラオス製の陶の臼と棒状の杵を使うなどして料理に挑戦した。スターン

### 神田キャンパスで防災体験イベント

を想定した的に水を当て、ポリタンの料理指導を担当した。代表の中田千聖さん(法3)は「これを機に自分の身を守ることに大切さを認識してほしい」と話す。



「まちかど防災訓練車」を使った放水消火訓練



炊き出しの豚汁を提供するSKV

### 地域とともに 社会貢献活動

神田で清掃活動 地域清掃活動「2019 Clean Town」が7月6日、神田キャンパスで行われた。学生と地域の方々が協力して、キャンパス周辺のゴミを拾った。



雨の影響もあってか、街にゴミは少なく、毎年参加しているSKVのメンバーは「ゴミの総量はいつものクリーンタウンの7割程度」とみる。それでも中には使用済みのカセットボンベなどが捨てられていた。サークルの仲間と参加した高野良太さん(経営2)は「全体的にきれいだったが、路上喫煙禁止なのにタバコの吸殻が目立った。ポイ捨てはやめてほしい」と話していた。

力を合わせてゴミを拾う参加者たち